九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学附属図書館の移転計画vol.2 : 統合移転第IIステージを終えて

堀, 優子
九州大学附属図書館図書館企画課企画係

https://doi.org/10.15017/18324

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2009/2010, pp.45-55, 2010-03-31. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

報告

九州大学附属図書館の移転計画 vol.2
－統合移転第Ⅱステージを終えて－

堀　優子[†]

<抄録>
平成 21（2009）年，九州大学統合移転第Ⅱステージにおける六本松地区移転に伴い，附属図書館のⅡ期移転を実施した．本稿では，第Ⅱステージの図書館移転における計画策定と実施，移転の実際，各種課題への対応について記録し，第Ⅲステージにおける移転，及び 29 年度に控える新中央（文系）図書館（仮称）建設に向けての参考とする．

<キーワード>　九州大学理系図書館，移転計画，九州大学統合移転

The Relocation Plan of Kyushu University Library, vol.2
－Completion of the Stage Ⅱ－

HORI Yuko

1. はじめに

平成 21（2009）年 10 月，九州大学六本松地区からの伊都地区への移転が完了し，九州大学統合移転第Ⅱステージが完了した．

この六本松地区移転に伴い，附属図書館も，21 年 4 月，理系図書館を「伊都図書館」と改称し，六本松地区より移転した全学教育，比較社会文化研究院，言語文化研究院へのサービスを開始した．また，7 月末の理系図書館Ⅱ期増築工事完了，設備の導入，六本松図書館及び数理学研究院等の資料移転を終え，同 10 月，拡張された伊都図書館が新たなスタートを切ったところである．

本稿では，この九州大学統合移転第Ⅱステージにおける，附属図書館の移転の計画から実施までを振り返り，第Ⅲステージのための記録としたい．

2. 九州大学統合移転の概要と第Ⅱステージ開始までの経緯

2.1. 第Ⅰステージの概要（平成 17～19 年度）

九州大学の新キャンパスへの統合移転は，平成 3 年に決定し，13 年に『新キャンパス・マスタープラン 2001』[1]が提示された．この中で，附属図書館の 2 館構想が具体化して以降，九州大学の統合移転計画に沿った附属図書館の移転計画が開始されたのである．

統合移転計画では各部局が段階的に移転するため，附属図書館はその移転部局にあわせて移転し続けることとなる．まずは，将来に向けての図書館のあり方と十数年にわたる移転計画を，『九州大学附属図書館将来構想』『九州大学附属図書館移転計画』『九州大学附属図書館サービス計画 2005』[2]としてとりまとめた．

工学系，システム情報系が移転する第Ⅰステージ（17～19 年度）においては，大学が策定した『工学系地区基本設計』[3]に基づき，理系図書館の具体的な検討を開始し，『理系図書館基本計画』『理系図書館資料配架計画 2005』『理系図書館サービス・業務運用計画 2005』[4]を策定した．この第Ⅰステージの移転については，『九州大学附属図書館研究開発室年報 2005/2006』で詳細に報告されている[5]．これらの計画の下，理系図書館Ⅰ期（地上 1 階地下 1 階）の整備，工学系Ⅰ期の資料移転を経て，17（2005）年 10 月，理系図書館が開館した．その後，18 年度に工学系Ⅱ期の移転が行われ，第Ⅰステージの移転が完了した．

2.2. 六本松地区直接移転の決定

16 年 9 月に変更された統合移転スケジュールでは，第Ⅱステージにおいて，六本松地区（旧教養部キャンパス）の全学教育，比較社会文化研究院・学府（以下「比文」という），言語文化研究院（以下「言文」という），数理学研究院・学府（以下「数理学研究院等」という）の一部，及び六本松図書館が，箱崎地区へ暫定移転し，その後第Ⅲステージにおいて，箱崎地区の文系部局と一緒に伊都地区へ再移転することとなっていた．ところが，全学教育の学習環境，教育研究機能の円滑化および移転関連コストの観点より再検討が行われた結果，18 年 9 月，六本松地区の伊都地区への直接移転が決定し，統合移転スケジュールの変更がおこな

[†] ほり ゆうこ　　九州大学附属図書館図書館企画課企画係　E-mail: yukos@lib.kyushu-u.ac.jp

われた．現在の統合移転スケジュールは，図 1 のとおりである．

図 1　九州大学統合移転スケジュール

すでに(全学教育が行われる)『センター地区基本設計』[6]は策定されていたが，比文，言文，六本松図書館の最終移転先である文系地区は，その用地は未取得であり，数理学研究院等の移転先であるウエスト 1 号館も理学系移転時（26 年度予定）までは整備されないこととなっていた．そこで，比文・言文，数理学研究院等は，それぞれ，将来の事務局棟，情報基盤研究開発センター棟（理系図書館に隣接）の建物を前倒しで整備して暫定移転することとなり，六本松図書館も理系図書館を増築し，そこに暫定移転することとなった．さらに，数理学研究院等の教育・研究に必要な面積を確保するため，施設部と図書館との間で協議を重ねた結果，理系図書館の 3 階を当面数理学研究院等の教育研究棟として使用することも決定した．こうして，統合移転第Ⅱステージが動き出したのである．

本移転では，構成員が六本松地区より約 5200 人，箱崎地区（数理学研究院理学・工学分室）より約 400 人移動し，伊都キャンパスが九州大学で最大のキャンパスになることとなった．第Ⅱステージでの図書館移転の概要図を図 2 に示す．

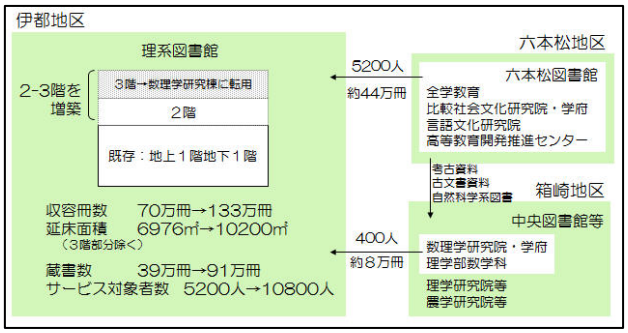


図 2　第Ⅱステージにおける図書館移転の概要図

3. 検討体制

第Ⅱステージにおける図書館移転の検討体制については，第Ⅰステージと同じく重層的な体制をとった．附属図書館商議委員会の下に六本松地区移転検討専門部会（以下，「専門部会」という）を設け，移転計画，配架計画及びサービス計画等の策定を行う体制をとる一方で，図書館職員の検討組織として，18 年度末より新図書館推進室の下に複数の専門チームを設け，年次に応じて柔軟に組織することで，各段階に応じた移転の詳細の計画・検討・実施を進めた．各専門チームの編成を含む検討体制を，図 3 に示す． 資料として，「専門チームの変遷と活動内容」を文末に添付する．[資料 1]

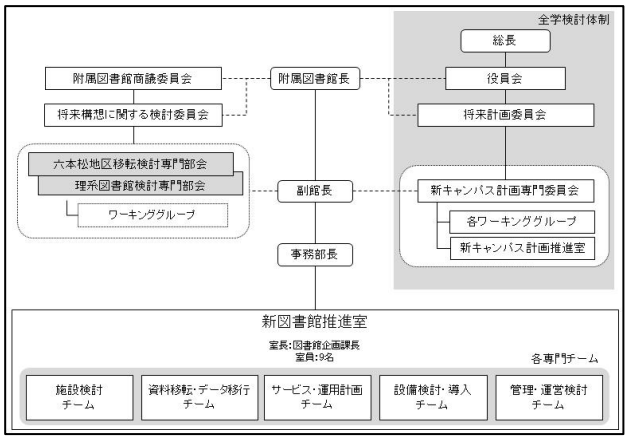


図 3　検討体制図（H21 年度）

4. 各種計画の策定

各種計画の策定については，新図書館推進室の下の各専門チームで立案し，専門部会で審議の上，最終的には商議委員会での了承により決定した．

4.1. 『九州大学附属図書館移転計画』の改訂

平成 15 年 7 月に策定した『九州大学附属図書館移転計画』は，移転最終段階までの附属図書館の移転の概要を示したものであったが，今回の統合移転スケジュールの変更に対応するため，「配架・移転計画検討チーム」（20 年度以降は「資料移転・データ移行チーム」．以下同じ）において検討を行い，19 年 10 月，その改訂版である『九州大学附属図書館移転計画 2007』を策定した[7]．移転後の両図書館における蔵書の配架計画，図書の移転スケジュール，移転段階に対応した運用体制，資料移転にあたっての課題をまとめたものである．

4.2. 『六本松地区移転に係る資料の移動・配架方針』

理系図書館の資料配架については，17 年 6 月に『理系図書館資料配架計画 2005』を策定していたが，六本松図書館の資料が暫定的に理系図書館に移転することになったため，「配架・移転計画検討チーム」において，上記移転計画と並行して，資料の移転・配架方針を検討した．

伊都地区移転予定の約 52 万冊は，理系図書館の 2 階までの開架収容能力を超えていたため，自動書庫への入庫，箱崎中央図書館への移転，除籍等による冊数の縮減も含め，関係部局と調整を行い，専門部会での 3 回の審議ののち，20 年 3 月，『六本松地区移転に係る

資料の移動・配架方針』が了承された[8].

そして，六本松図書館より約 40 万冊，箱崎地区の中央図書館及び数理工学分室図書室より約 8 万冊を伊都地区へ，六本松図書館の自然科学系図書及び貴重資料約 4 万冊を箱崎中央図書館へ移転することとなった.

4.3.『伊都図書館サービス・業務運用計画 2008』

理系図書館におけるサービス及び業務に関しては，前述の『理系図書館サービス・業務運用計画 2005』に従って，オープン以来運用を行っていたが，六本松地区移転に伴い，伊都図書館としてサービス対象を拡大することになったため，「サービス・運用計画チーム」において検討を行い，21 年 2 月，改訂版である『伊都図書館サービス・業務運用計画 2008』を策定した．この 3 年間の変化（情報通信技術の急速な発展により，サービスも飛躍的に拡大していた）を反映させるとともに，開館時間や相互利用サービスを拡充したほか，蔵書構築等の項目を新たに盛り込み，移転第Ⅱステージにおける伊都図書館のサービスの詳細，およびそれをバックグラウンドで支える業務運用の詳細をまとめている[9].

5. 種々の問題への対応

上記のような体制で，個々の計画について，専門チームでの検討案を専門部会に提案し，またその意見を持ち帰り再検討をする，という作業を繰り返した．だが，その道は平坦ではなかった．利用環境の変化に伴う様々な意見に加え，思いもかけぬ外部要因が加わり，何度も高い壁を乗り越えることとなった．そのいくつかをここに記録する.

5.1. 自動書庫への資料入庫

理系図書館は，Ⅰ期工事において，約 80 万冊収容の自動書庫を想定して建設され，平成 18 年 2 月にその半分 40 万冊分の自動書庫を導入し，Ⅱ期増築時に残り 40 万冊分を導入することとなっていた.

今回の移転資料約 52 万冊に対し，理系図書館の増築により増加する収容冊数は 60.5 万冊，その内訳は，開架スペース 20.5 万冊（一般開架書架 10.5 万冊，開架集密書架 10 万冊），自動書庫 40 万冊である．既存書架の空きスペースを足しても，収容可能な開架スペースは 35 万冊で，残り 13 万冊は自動書庫に入庫せざるを得ないという計算になった.

予想されたことだが，これには，書架をブラウズして資料探索を行うことの多い文科系の教員から数多くの反対意見が出された．専門部会では，自動書庫増設予定スペースに積層集密書架を導入してはどうか，近くにプレハブを建ててはどうかなどさまざまな意見が飛び交った．数回の議論の末，地階開架集密書庫を予定より約 50 ㎡分増やすこと，理学部分属教員の箱崎地区移転に併せて自然科学系図書の多くを箱崎中央図書館へ移転すること，自動書庫には重複図書のみ入庫すること，入庫資料も将来的に新中央図書館へ再移転することを条件に，一定の資料を自動書庫に入庫することに合意を得た.

5.2. 学習の場からの距離

移転対象の六本松キャンパスは都心に位置し，講義棟・研究棟・図書館・事務棟・体育館・グラウンド・サークル棟等がコンパクトにまとまっていた．これに比べ，伊都キャンパスは，広大かつ高低差があり，全学教育講義棟のあるセンター地区から理系図書館までは，5 分程度坂を上らねばならない.

図書館としては，2 階までのスペースで六本松図書館と同等の席数と収容冊数の確保に頭を悩ませていたのであるが，専門部会の席上問題になったのは，そのことよりむしろ，学生の学習の場からの「距離」であった．講義棟の近くに，資料があり，学習・交流ができる居場所が必要であるという教員の強い主張で，議論が先に進まなかったのである.

この「距離」をなんとか解決できないか，図書館と関係部署との検討の末，新キャンパス担当理事を兼ねていた当時の有川附属図書館長の英断により，将来的に学習スペースを整備する予定であった全学教育講義棟 4 階の空きスペースを，このタイミングで整備し，解決を図ることとなった．その後，全学教育を管轄する高等教育開発推進センター，学務部全学教育課と図書館との間でプランニングから設備等の導入，運営についての検討等を行い，21（2009）年 4 月，図書館機能を併せ持った学習・交流スペース「嚶鳴（おうめい）天空広場 Q-Commons」（写真 1）が誕生したのである．約 450 ㎡のスペースに，約 200 の席数，約 1 万冊の収容能力，可動式のテーブルや PC を備え，図書館職員が常駐し貸出・返却，他キャンパスからの資料取り寄せ等のサービスを提供している．大講義室に挟まれた理想的な場所で，連日予想を超える多くの学生で賑わっている．まさに学生に対する教員の熱意が生みだした場所である.

写真 1　嚶鳴天空広場 Q-Commons

5.3. 理系図書館の増築遅延

理系図書館の増築は，21 年 4 月のオープンに向け，施工業者も決定し，19 年 9 月着工，20 年 12 月竣工予定であった．ところが，耐震偽造事件を発端とした建築基準法改定による審査の厳格化及び審査期間の長期化で，福岡市の建築許可がなかなか下りないという不測の事態が発生したのである．施設部の福岡市との懸命な調整にも関わらず，このままでは竣工が間に合わないという時期になり，ついには施工業者のキャンセルによる再入札となり，増築工事は半年遅延（21 年 7 月末竣工）することとなった．

伊都地区での全学教育の 4 月開講，六本松地区の土地売却による明け渡し時期は決定している．しかし，六本松図書館の移転先の建物が建たないというのである．

施設部の説明を受けて図書館内でその対応を協議し，①資料は21年4月の全学教育の伊都地区開講までに学生用図書を優先して移転する，②移転できない資料は配送システムを強化して迅速な提供を図る，③座席数は大学全体での支援体制を得て不足分の補充を図る，④六本松地区に残る数理学研究院等及び移転できない研究用図書の閲覧対応として六本松図書館を限定開館する，⑤移転期間中の貸出については冊数を増やし，かつ期間を延長するなどの暫定的な対応をとる，という基本方針を立て，関係部局との協議を行った．教員や学生（特に大学院生）からの教育・研究への影響を危惧する声も多く，詳細な対応まで含めた数度の協議及び専門部会での審議を経て，『理系図書館増築遅延による暫定期間中の図書館サービス』を決定した．

この増築遅延により， 資料移転が春・夏の 2 段階となり，春に移転配架した資料を，夏に再度増築部分に移設するなど，竣工から書架の設置，資料移転を非常にタイトなスケジュールで行わざるを得なくなった．

また，遅延期間においては，六本松図書館を伊都図書館六本松分室として 8 月末まで開館し，パート職員を延べ 4 名配置したほか，配送便を伊都-六本松間 1 日 1 往復から 2 往復に増やし，依頼から半日での資料取り寄せを可能とした．

5.4. 耐荷重問題

理系図書館の設計は， I 期工事の際に最終形までの設計が行われており，増築に際し若干の設計変更を申し入れたが，上増築であるため，骨組みにあたる部分の設計変更は不可能であった．しかし，移転スケジュールの変更に伴う収容冊数及び座席数の確保のため，当初の各室の使用計画を変更せざるを得ない箇所が数多く出現し，当初居室予定の部屋にも書架を設置する必要が生じた．ところが，レイアウトプランも固まり書架の仕様書案まで作成した段階で，施設部より，書架設置予定の部屋について耐荷重が不足するというチェックが入ったのである．

それまで，書架メーカーの計算書を基に可能な範囲での書架設置を計画していたが，建築設計者と書架メーカーとの間で耐荷重の計算方法が異なり，かなりの食い違いが生じたのである．設計者の計算書を無視するわけにもいかず，梁を強化するなどの検討も行ったが，予算的・工期的に難しいとの結論となり，結局，室の配置を入れ替え，収容能力の不足分は既存資料の自動書庫入庫により空きスペースを確保することとなった．20 年 12 月から翌 1 月にかけて，配架資料の見直し，自動書庫入庫の準備作業，派遣職員の雇用及び入庫作業などを急ピッチで行った．

5.5. 飲食施設の整備

六本松地区の移転にあたり，学生・教職員 5600 人の移動に伴う食数の確保について，計画している生活支援施設のみでは対応できないということで，その一部を図書館で担うこととなった．具体的には，理系図書館のロビーにカフェ形式の飲食施設を設け，100 食分を提供（席数については，理系図書館開館当初より設置されていた約 40 席のテーブルと椅子をそのまま利用）するということである．生活支援施設とあわせて事業者の選定が行われ，九州大学生活協同組合に決定した．

カフェの設置場所については，複数の案があり二転三転したが，給排水設備の工事の容易さや水漏れの影響の少ない場所として，隣接する数理学研究教育棟との接続部分のスペースに設置することとなった．

公募により名称も「Libca（リブカ）」に決定し，21 年 4 月からの仮営業を経て，10 月，現在の形で本オープンした．安価で飲める本格的なコーヒーやひと味工夫された Libca ドックに人気が集まっている．

6. 移転の実際

この章では, 平成 18 年 9 月の六本松地区直接移転の決定以降足かけ 3 年にわたる移転の実際について述べる．資料として，全体のスケジュールを文末に添付する．[資料 2]

6.1. 予算要求と示達，執行

移転及び設備に係る経費については，18 年度末に移転費と設備費の概算を見積もり，20 年度概算要求として提出した。

移転費は全額が大学の目的積立金，設備費は文部科学省からの建物新営設備費と大学の目的積立金がおよそ 1 対 7 という内訳であり，これらは，20 年度予算として示達を受けたのだが，増築遅延により，その多くは 21 年度に繰り越すこととなった.

移転に関わる準備費用については，移転対策経費として間接経費を 20-21 年度にわたり要求し，派遣職員の雇用，アルバイトの雇用，棚卸作業の業務委託等を行った.

6.2. 増築工事

増築工事は，再入札により（株）銭高組が施工業者に決まり，20（2008）年 12 月着工された．仮設屋根剥がしに始まり，鉄骨の建方，外装，吹き抜け工事，内装と進んでいったが，図書館を開館しながらの上積工事であったため，工事の騒音はもちろんのこと，外壁に組まれた足場，上層階の給排水設備工事による立ち入り区域の規制，雨漏りによる書架上部の養生シート覆い, 4 ヶ月間の給湯室およびエレベータの使用不可, 吹き抜け工事によるエントランスホールの 3 ヶ月間仮囲いなど, サービスを行う上での様々な困難があった. その間，利用者の安全確保，騒音対策（試験期間との調整), 資料移転の動線確保等々, 伊都図書館と施工業者との間で綿密な調整が行われた.

21 年 7 月末竣工し, 図書館への引き渡しが行われた. 施設概要は以下のとおりである.

【施設概要】

建築面積：3,672.06 ㎡

延床面積：14,741.8 ㎡

階数：地下 1 階地上 3 階建

構造：鉄筋コンクリート造，2-3 階部分は鉄骨造

＜Ⅱ期＞

設計：九州大学施設部，梓設計

施工：建築工事：㈱銭高組

電気設備工事：㈱島田電気商会

機械設備工事：東洋熱工業㈱

6.3. 資料移転・データ移行

6.3.1. 移転対象部局との調整

六本松地区移転が具体化した 18 年度末頃, 移転対象となっている六本松地区の各部局及び数理学研究院との間での調整を開始した.

六本松地区については，大きな方針等は前述の専門部会において協議し，移転準備やサービスの移行等については六本松分館運営委員会で審議後，各教員への通知等により周知を図った.

数理学研究院との間では，3 か所（理学分室，工学分室，六本松分室）に分散している資料について，資料移転（または除籍）･配架方針, それぞれの配架方法, 準備作業と手順・体制等について，数理学研究院の図書委員の教員と「配架・移転計画検討チーム」との間で，数度の打合せ及びメールでの頻繁な連絡調整を行った.

雑誌については，3 分室間の重複も多く，1 部目：自動書庫, 2 部目 : 数理研究棟の雑誌室または自動書庫, 3 部目：除籍（すべて他大学へ譲渡）という方針を立て，雑誌の製本状況，DB 登録状況，EJ でのアクセス状況，配架場所による優先順位の基準を基に，タイトル・所蔵分室ごとに雑誌の移動先・処分を決定した. この決定したリストに従い，製本作業，所蔵登録，除籍，譲渡先への発送等の準備作業を行った．図書については，1 部目：理系図書館 1F 開架，2 部目：自動書庫または研究棟配架という方針を立て，数理統一分類への変更や仕分け作業，前倒し移転等を行った.

移転準備には，行き先ごとの仕分けや作業のためのスペースの有無・広さが作業効率に大きく影響するため，前倒し移転による空きスペース確保や，旧工学部跡地の一時借用等も行った.

6.3.2. 移転の準備作業体制

資料移転の準備については,「配架・移転計画検討チーム」で計画を立て，19 年 12 月頃から本番移転の直前まで，チームメンバー及び六本松図書館・中央図書館職員を中心に, 派遣職員 2 名（20 年 4 月~21 年 3 月），一時的なアルバイト雇用，あるいは全学の図書館職員に動員をかけて，順次実施した．また，数理学研究院関係については，数理雑誌室及び工学分室図書室の職員と協力して進めた.

各々の作業については，作業ボリュームをすべて人日に積算し，それに実際の日数と人数を割り当て，動員の呼びかけを行い, 作業後の入力作業等については, 担当の係において実施した．資料として，実施作業一覧を文末に添付する．[資料 3]

6.3.3. 資料移転

資料の移転は，本番移転第 1 弾（21 年 2-3 月），本

番移転第 2 弾(21 年 8-9 月)の 2 回に分けて行ったが，作業スペースの確保や本番移転の短期間かつスムーズな実施のため， 19 年 12 月～20 年 10 月にかけて前倒し移転を 3 回実施し，移転資料全体の約 2 割を自動書庫に入庫した.

また，複数の場所から一か所に混配する資料をあらかじめ合体しておくため，箱崎地区内での事前移転作業（工学分室→中央図書館，数理雑誌室→工学分室）も数回に分けて行った.

本番移転は，一般競争入札により請負業者が決定したが，第 I ステージでの図書移転と同じ業者であったため，順調に進行した．請負業者が開発した図書移転のための特別仕様の段ボール（ガムテープ不要，ワンアクションで組み立て可能，再利用可能）は，作業効率とコストの面で非常に優れていた.

本番移転第 1 弾では, 増築工事中ということもあり，エレベータが使用できない中での資料移転となり，搬入口と搬入経路の選択が重要であった.

第 2 弾では，物品の搬入，数理学研究院の移転と重なり，搬入口，搬入経路，使用するエレベータを日時で細かく調整する必要があった．また，移転元および移転先での段ボール箱の仮置き場の確保も重要なポイントとなった.

そして，資料の移設が最も集中した 9 月初めの 1 週間を除いては, 通常開館しながらの移転作業であった.

6.3.4. データ移行

資料移転に伴うデータの移行作業も，緻密な計画を要した.「配架・移転計画検討チーム」を中心に，ローカル DB と NACSIS 総合目録データベースの図書・雑誌それぞれの所蔵データについて，資料の種別及び行き先ごとに, データの集合の作り方・移行方法・手順・時期等を検討し，計画を立てた．一括変更及び手作業でのメンテナンス作業, NC-Auto を使っての一括更新, NII に依頼しての強制一括変換など，様々なやり方を組み合わせての実施で，いずれも時間と労力・スキルを要求される作業であった.

6.4. サービス・業務の準備及び移行

「サービス・運用計画チーム」を中心に，20 年 6～10 月頃にかけて, 詳細な運用計画及び業務の移行の検討を行った．図書館のあらゆる業務における，懸案事項・移行事項の洗い出し，その対応，体制とスケジュールを検討し，「運用移行作業シート」にまとめていった．特に ILL 業務については，1 件の処理が長期にわたり，かつ他機関に影響を与えるため，その検討には注意を要した．また, 理系図書館で 21 年 4 月より現金の収納業務（私費での文献依頼）を始めることにしたため, そのための事務手続き上の処理も必要であった.

この作業シートを基に，各館の担当係において，準備，利用者や関係部局，関係機関への告知を行い，順次実施していった.

6.5. 設備の検討・導入

導入する設備（什器類，機器類）については，20 年 1 月から「設備検討チーム」(20~21 年度は設備検討・導入チーム）を中心に，検討を行った.

6.5.1. 検討から仕様書の作成，契約まで

第 I 期の際にまとめた理系図書館の空間コンセプトを基に，開館後の利用状況や様々な図書館の事例，各メーカーのショールームの見学を参考として，まずは各室に配置する什器類の種別ごとの要件（数量，仕様）の整理を行った．その要件を提示し，複数業者からレイアウトと什器の提案を受け，チーム内で検討を行った．その後，業者との検討と再提案を受けることを繰り返し，徐々に仕様を固めそれを仕様書に落とし込む作業を行っていった．特に書架や閲覧机については，I 期での反省点を踏まえ，改善要望を細部にわたり仕様書と設計図に反映させていった.

また，検討の過程で，20 年度はじめの設備費の予算示達を受け，再度，什器ごとのおおまかな予算配分を行うと同時に，契約方法と納入期限を基にスケジュールを組み，進めていった．契約は，政府調達 3 件（電動集密書架，開架書架，閲覧机・椅子)，指定随意契約 1 件（自動書庫 2 期増設)，一般競争 4 件（一般什器 2 件，ブラインド，利用者用 PC システム)，その他見積り合せ・随意契約数件であった.

情報サロンの利用者用 PC については， I 期に導入したシンクライアントシステムを増設する方向で検討を進めていたが，本学情報統括本部との協議の結果，全学的な教育情報システムの更新に合わせ, 図書館(中央図書館・医学図書館含む）の PC も，教育用 PC へ統合することとなった．同部との間で，台数や仕様についての調整を行い，iMac が設置された．1 階エントランスプラザの既設 PC についても，利用者（特に 1 年生）の混乱を避けるため，iMac に切り替えたが，オンラインでプリントできないこと，学外利用者に対応していないため, 既設 PC と並行しての運用をしている.（iMac からのオンラインプリントについては, 22 年 4 月より運用開始）

6.5.2. 業者の決定から導入まで

納入業者が決定すると，まずは工程の確認，詳細な仕様の確認，電源や建築との兼ね合い部分は施設部との 3 者での調整を行った．特に製作もの（書架・机等）については，部分試作を基に詳細を確認しあった.

納入設置にあたっては，各移転担当部署及び関係業者間で定期的な調整会議を行い，資料移転，物品移転

等とスケジュールを調整しながら，進めていった．

6.6. 組織体制

組織については，「サービス・運用検討チーム」でとりまとめた業務量試算を基に，「管理・運営チーム」において移転後の組織体制の検討を行い，それをたたき台として，全学的組織である「事務機構のあり方に関する検討委員会」において検討が進められた．図書館資料の収集・整備を集中的かつ効率的に行うため，21年度より，中央図書館に資料整備室を設置するとともに，伊都地区における図書館サービスの強化及び今後の図書館移転計画の推進を図るため，伊都地区に新たに課を設置することとなった．

6.7. 広報

図書館の移転の概要については，附属図書館のウェブサイトに新図書館のページを設け，計画と進捗状況を掲載するとともに，図書館報『きゅうとNEWSLETTER』にイラスト入りで記事を連載した．また，移転の進行に伴うサービスの変更や移行，移転作業に伴う騒音等の発生については，随時館内掲示やウェブサイト上で案内するほか，各部局への文書の発行等により告知を行った．

また，21年10月のリニューアルオープンを記念し，『きゅうとNEWSLETTER』の特集号を発行したほか，『九州大学附属図書館要覧』の改訂もあわせて行った．

6.8. 六本松図書館の閉館

移転に伴い，六本松図書館は平成21（2009）年2月18日をもって，閉館した．閉館にあたっては，附属図書館広報室に20年度，「ありがとう六本松図書館チーム」を設け，展示会「ありがとう六本松図書館」の開催（20年10月～閉館まで），及び記念誌『ありがとう六本松図書館』の発行を行った．

最終日には，歴代分館長・部局長やOB，現役教職員・学生などの参列の下閉館式を執り行い，旧制福岡高等学校図書室時代からの87年間の歴史に幕を閉じた．

その後，増築遅延への対応として，21年4月から8月末まで，伊都図書館六本松分室として部分的に開室し，9月に資料等の移転作業，10月には六本松キャンパスの明け渡しに備え，すべての什器類の撤去を行い，建物を封鎖した．

7. 伊都図書館としての再スタート

21年4月，理系図書館は「伊都図書館」と改称し，六本松地区から移転した全学教育，比較社会文化研究院・学府，言語文化研究院，高等教育開発推進センターへのサービスを開始した．また，7月末の理系図書館Ⅱ期増築工事完了，設備の導入，六本松図書館及び数理学研究院等の資料移転を終え，同10月，新たなスタートを切ったところである．

利用者数については，21年度前期は，工事中で周囲を足場に覆われていたこともあり，予想より少なかったが，後期に入り次第に利用者も増え，22年度は約6割増となっている．特に情報サロンやグループ学習室などは稼働率も高く，有効に活用されている．

前述の嚶鳴天空広場Q-Commonsの利用者は，席数約200に対し，21年度前期（1-2年生）平均667人/日，後期（1年生のみ）平均401人/日に達しており，これらの全学教育の学生を，どうやって図書館へ誘導し，さらに充実した学習へとつなげていくかが，今後の課題の一つである．

8. まとめ

以上，時系列的に行きつ戻りつとなったが，第Ⅱステージにおける図書館の移転を振り返り，大枠ではあるができる限り事項を漏らすことなく記述したつもりである．

反省点は大きいことから小さいことまで数多くあるが，ここでは記録のみとし，詳細は別途内部資料としてまとめて共有・継承していくこととしたい．

26年度より，いよいよ統合移転第Ⅲステージに突入する．図書館にとっては，29-30年度に，最大規模となる文系及び中央図書館の移転，新中央（文系）図書館の建設が待ち受けている．

移転にあたっては，260万冊の資料移転，収容能力の確保，二十数種類に及ぶ分類体系の資料の配架方法，全学的な重複調整などの課題がある．また新図書館の建設にあたっても，図書館に求められる機能，特に学習の観点，資料保存の観点から最適な図書館建築の追求，収容能力と書架ブラウズ機能をどうバランスをとっていくかなど，様々な課題がある．

また，大規模な建物となるため，施設・設備の維持・管理体制やランニングコストについては，建築の検討の段階からきちんと積算した上で，維持可能な計画としておく必要があろう．さらに，組織の再編も伴うため，予算の裏付けや人員配置のことも関係部局との間で調整していく必要がある．

そしてもちろん，予算も人員も厳しくなる中，これらのプロジェクトを推進していくためには，日常業務のスリム化も必要である．

9. 最後に

こうやって改めて振り返ると，図書館の移転というのが総合プロジェクトであることがわかる．図書館機能のハード面，ソフト面での再構築，物理的な物の移

動，目録データの移行・メンテナンスに加え，財政，管理・運営，広報といった根幹部分からの再構築である．

これらを達成するには，学内の各部署（施設部，財務部，学務部，移転対象部局）と密な連携が重要であり，協力支援いただいたすべての部署に感謝を表したい．

そして，日常業務を抱え，利用者へのサービスを出来る限り維持しながら，このプロジェクトに関わってきた職員の努力が並々ならぬものだったことを，改めて実感した．蓄積された知識と経験に基づき，このプロジェクトでそれぞれに持てる力を発揮してくれたすべての職員に敬意を表したい．

また，増築期間中も図書館に足を運び，騒音や暗い環境にも耐えながら利用してくれた利用者にも感謝したい．

さらに，様々な業者にお世話になった．移転にせよ設備等の購入にせよ，最終的には入札等になるが，プランニングの段階において，レイアウトや書架・閲覧机などの仕様について，こちらの要望を提案として形にしてもらった．その協力にも感謝したい．

幸い，新図書館の立ち上げ及び移転に興味を持って九大図書館に入ってきた職員も少なからずいる．これまでの経験知を持って，これからの移転においても，様々な課題に立ち向かっていけると信じている．

参考文献

[1] 九州大学，“新キャンパス・マスタープラン 2001”，http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/archive/plan/master/index.html（参照 2010-06-30）

[2] 九州大学附属図書館，『九州大学附属図書館将来構想』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_shorai.pdf，『九州大学附属図書館移転計画』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_iten2003.pdf，『九州大学附属図書館サービス計画 2005』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_service2005.pdf（参照 2010-06-30）

[3] 九州大学，“九州大学新キャンパス・工学系地区基本設計”，http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/archive/plan/design/engineering/index.html（参照 2010-06-30）

[4] 九州大学附属図書館，『理系図書館基本計画』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_rikei.pdf，『理系図書館資料配架計画 2005』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_rikei_haika2005.pdf，『理系図書館サービス・業務運用計画 2005』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_rikei_service2005.pdf（参照 2010-06-30）

[5] 昌子喜信，“九州大学附属図書館の移転計画，”九州大学研究開発室年報 2005/2006，pp.44-48，2006.

[6] 九州大学，“九州大学新キャンパス・センター地区基本設計”，http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/archive/plan/design/center/index.html（参照 2010-06-30）

[7] 九州大学附属図書館，『附属図書館移転計画 2007』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_iten2007.pdf（参照 2010-06-30）

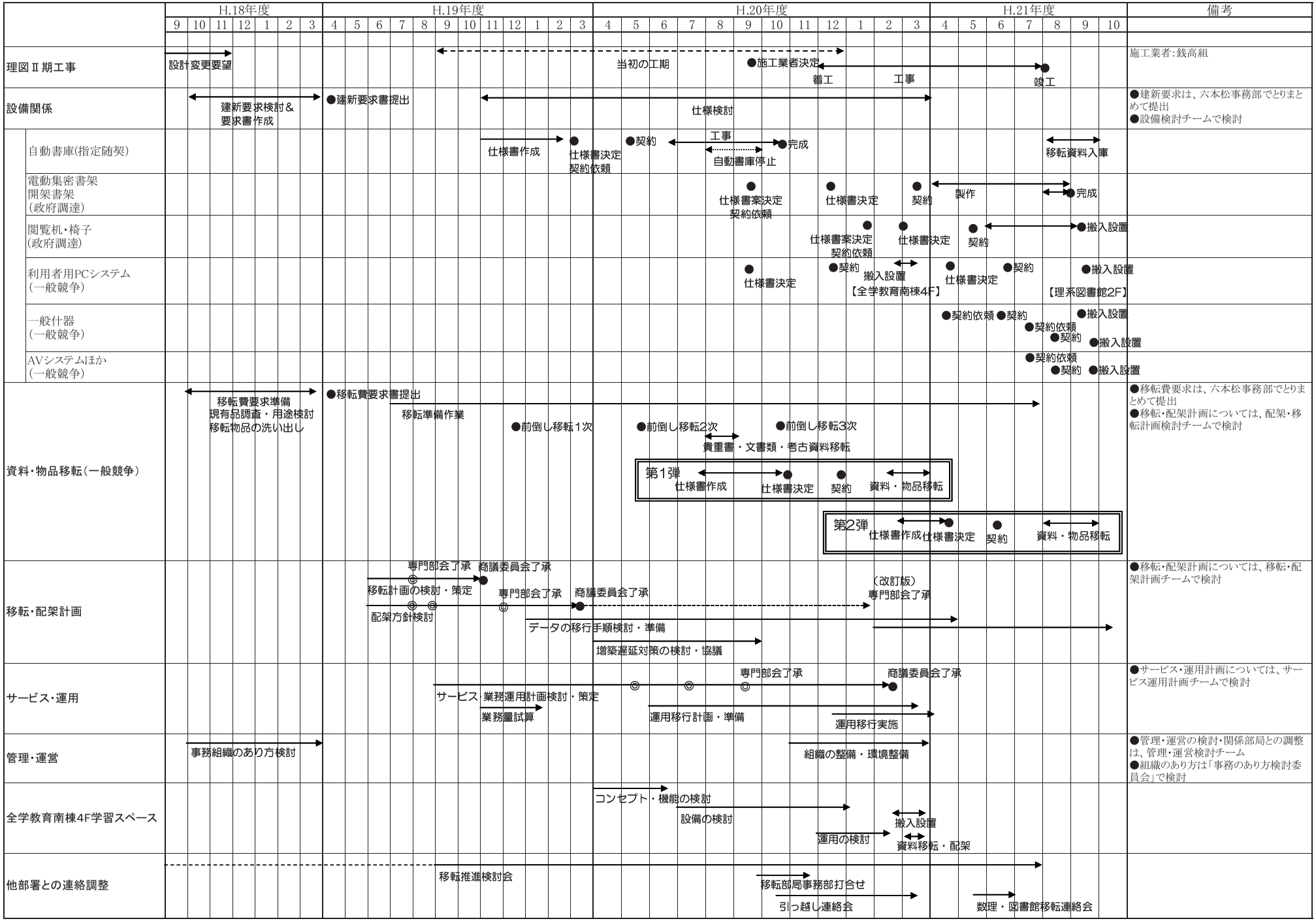
[8] 九州大学附属図書館，『六本松地区移転に係る資料の移動・配架方針』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_ropp_ido2009.pdf（参照 2010-06-30）

[9] 九州大学附属図書館，『伊都図書館サービス・業務運用計画 2008』，http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/media/newlib/plan_ito_service2008.pdf（参照 2010-06-30）

【資料1】 第Ⅱステージ　専門チームの変遷と活動内容

	内容	H18年度 （H19.1～始動）	H19年度	H20年度	H21年度
施設検討	■施設部との連絡調整協議 ■設計変更に関する検討・調整 ■電気設備等 ■施設調査票への回答	理図施設検討チーム			
配架計画 資料移転 データ整備		配架・移転計画検討チーム	配架・移転計画検討チーム 資料移転問題解決チーム 中央館再配置チーム （H20.2-数理移転・中央館再配置チーム）	資料移転・データ移行チーム	
	■移転計画2007の検討・作成				
	■配架方針の検討・策定				
	■移転部局との調整				
	■資料移転の詳細計画・手順の検討・実行指揮				
	■データの移行手順の検討・準備				
	■所在管理・各種コード体系等の検討				
	■増築遅延対策の検討				
	■その他資料移転に係る連絡・調整				
サービス ・運用			サービス・運用計画チーム		
	■理系図書館サービス・業務運用計画				
	■業務量試算				
	■運用詳細＆移行の検討および準備作業				
設備	■設備の検討・調達・導入		設備検討チーム	設備検討・導入チーム	
管理・運営	■図書館運営(庶務・人事・予算管理・執行・施設管理等)に関する検討 ■関係部署との調整		（H19.10-） 管理・運営検討チーム		

【資料2】六本松地区移転にかかるスケジュール（附属図書館）



【資料3】　　資料移転＆データ整備関連　実施作業一覧（平成19-21年度）

年度	期間	種別	作業内容	場所	件数（概数）	体制
H19（2007）	2007.12.18-19	資料移転	資料前倒し移転　第1次 （六本松＆中央館→理系図書館）	箱崎・六本松→伊	13,000冊	業務委託
	2008.1.9-16,21-25	入庫	自動書庫入庫作業 （12/18-19移転分）	伊都	13,000冊	全館動員3名×13日
	2008.3.3-12	作業	数理（エ）重複図書　表貼り＆ID読み取り作業	箱崎（エ）	7,000冊	中央館動員
	2008.3.14	資料移転	資料前倒し移転　第2次① （中央館→理系図書館）	箱崎→伊都	8,300冊	業務委託
H20（2008）	2008.4.1-2009.3.31		派遣職員雇用：移転作業全般			派遣契約
	2008.4.2-8	入庫	自動書庫入庫作業 （3/14移転分）	伊都	8,300冊	派遣職員2名
	2008.4.9-18	作業	農学部重複図書　前倒し移転準備作業 （抜き取り＆箱詰め）	箱崎	5,100冊	中央館係割当
	2008.4.22	資料移転	資料前倒し移転　第2次② （中央館→理系図書館：農学部書庫重複図書）	箱崎→伊都	5,100冊	業務委託
	2008.4.30-5.22	作業	農学部（保存）重複図書　前倒し移転準備作業 （抜き取り＆タトル装着＆シール貼付＆箱詰め）	箱崎	8,000冊	中央館動員
	2008.5ころ	作業	数理（エ）図書　分類・装備変更	箱崎（エ）	約5,000冊	数理院生バイト
	2008.5.22-6.25	入庫	自動書庫入庫作業 （4/22、5/26-27移転分）	伊都	44,600冊	3名（派遣2+全学動員1）×25日
	2008.5.26-27	資料移転	資料前倒し移転　第2次③ （六本松＆中央館→理系図書館）	箱崎・六本松→伊都	39,500冊	業務委託
	2008.6.25-7.18	作業	農学部（保存）重複図書・雑誌　除却準備作業 （抜き取り＆データシート記入＆箱詰め等）	箱崎	6,600冊	派遣2名
	2008.7.2-15	作業	農学部（保存）　整理作業	箱崎	－	中央館再配置チーム
	2008.7-8	遡及入力	数理（保存）図書　遡及入力	箱崎	700冊	電子化係
	2008.7-	製本	数理雑誌製本	箱崎	6,100冊	資料サービス係・ナカバヤシ
	10.9/10.21-23/11.…	作業	数理製本雑誌　検収・シート貼り	伊都	6,100冊	中央館動員4名×全11日
	2008.8.6-12	作業	農学部（保存）製本雑誌　遡及準備作業 （IDシート貼付＆データシート記入）	箱崎	約2,500冊	中央館動員4名×5日
	2008.8.6-12	遡及入力	農学部（保存）製本雑誌　遡及入力	箱崎	約2,500冊	電子化係
	2008.8.20-22	作業	数理（エ）図書　並べ替え・処分雑誌の別置	箱崎（エ）	4,500冊	4名（中央館動員3+雑誌室1）×3日
	2008.8.18-9.5	作業	数理（中央館）図書　除却作業 （データシート入力＆箱詰め）	箱崎	15連	中央館係割当
	2008.8.18-26	データ移行・整備	数理（エ）図書　所蔵データ請求記号書き換え	箱崎	7,600冊	アルバイト雇用計79h
	2008.8-11	作業	数理　製本雑誌ページ数調査・入力	箱崎	不明	アルバイト＋派遣2名 入力：電子化係
	2008.9.8-19	資料移転	六本松→中央館貴重資料移転	六本松→箱崎	約2万点	業務委託
	2008.9.14-末	作業	数理（保存）雑誌　除却準備作業 （抜き取り＆データシート記入＆入力＆箱詰め）	箱崎	120冊	中央館再配置チーム＋派遣2名
	2008.9.24-30, 10.1-10	作業	数理（保存・工分室）製本雑誌　遡及準備作業 （IDシート貼付＆データシート記入）	箱崎＋（エ）	約7,000冊	中央館動員3*5名+派遣2名+α21名　総計36人日
	2008.9.29-12.末	遡及入力	数理（保存・工分室）製本雑誌　遡及入力	箱崎	約7,000冊	電子化係
	2008.10.16-29	作業	理学部重複図書　前倒し移転準備作業 （抜き取り＆箱詰め）	箱崎	2,200冊	中央館係割当
	2008.10.27-29	作業	数理雑誌室　EJ誌3-7年分　前倒し移転準備作業 （抜き取り＆ID読み取り＆箱詰め）	箱崎	3,900冊	チーム＆数理
	2008.10-	作業	数理（エ）製本雑誌　除却準備作業 （データシート記入）	箱崎（エ）	4,200冊	派遣2名
	2008.10末	作業	数理（中央館）雑誌　除却準備作業 （抜き取り＆ID読み取り＆箱詰め）	箱崎	400冊	中央館再配置チーム＋派遣2名
	2008.10.30-31	資料移転	資料前倒し移転　第3次 （六本松＆中央館→理系図書館）	箱崎・六本松→伊	16,600冊	業務委託
	2008.11.10-25	入庫	自動書庫入庫作業 （10/30-31移転分）	伊都	16,600冊	派遣2名
	2008.12.2-22	作業	理学部重複図書　除却準備作業 （抜き取り＆箱詰め）	箱崎	1,200冊	中央館係割当

年度	期間	種別	作業内容	場所	件数（概数）	体制
	2008.12.初め-19	作業	数理（エ）図書　IDシート表貼り	箱崎（エ）	4,500冊	派遣2名
	2008.12.25-26	作業	数理（中央館）　研究棟行き雑誌の抜き取り （抜き取り＆荷受室へ別置＆ID読み取り）	箱崎	220棚	中央館再配置チーム4名
	2009.1.8-31	入庫	自動書庫入庫作業 （工独自分類：地階集密より抜き取り＆入庫）	伊都	10,000冊	派遣2名
	2009.1.13-15	作業	数理（エ）　他大学譲渡雑誌箱詰め作業	箱崎（エ）	286箱	中央館再配置チーム＋派遣＋数理
	2009.1.13-14	作業	数理（エ）　理図行き雑誌別置作業 （抜き取り＆別置＆ID読み取り）	箱崎（エ）	3,300冊	派遣2名
	2009.1.14/2.24	資料移転	数理（エ）　譲渡雑誌を他大学へ発送	箱崎（エ）→他大学	286箱	
	2009.1.23	資料移転	数理（中央館）　研究棟行き雑誌→数理雑誌室へ移設	箱崎→箱崎	220棚	業務委託
	2009.2.4-18	作業	棚番号貼り@六本松／@伊都	六本松／伊都	－	分館職員+派遣
	2009.2.20-3.11	資料移転	資料移転　本番第1弾 （六本松→理系図書館）	六本松→伊都	約17万冊	業務委託
	2009.2.中-25	データ移行・整備	NC所蔵削除 （六→箱崎資料「六本松-@」の削除）	箱崎	27,000冊	電子化係
	2009.3	データ移行・整備	NC所蔵付け替え （六→理系移転資料「理系図-伊都中央」へ）	箱崎	約30万件	NIIへ依頼
	2009.3.16-19	作業	理図1F　混配＆ID表貼り （六本松全教図書）	伊都	32,000冊	全館動員5名+理系・六本松×4日
	2009.3.26-27	棚卸	棚卸し （理系図書館地階/1階　六本松全教図書）	伊都	60,000冊	業務委託
H21（2009）	2009.5.25-27	作業	数理（エ）図書　タトルテープ入れ	箱崎（エ）	3,400冊	3名（中央館+伊都動員）×3日
	2009.6.4	資料移転	数理（エ）図書→中央館へ移設	箱崎（エ）→箱崎	3,400冊	業務委託
	2009.6.5-19	作業	数理（エ）図書　数理（中央館）図書に差込	箱崎	3,400冊	中央館係割当
	2009.7.23-24	作業	棚番号貼り@六本松	六本松	－	チーム4名 伊都+応援12名
	2009.8-9	作業	棚番号貼り@伊都	伊都	－	伊都
	2009.8.18-24/9.7-14	作業	棚番号貼り@中央館	箱崎	－	中央館係割当
	2009.8.5-9.25	資料移転	資料移転　本番第2弾 ①8.5-12　中央館→伊都図書館：数理雑誌35,031冊 ②8.31-9.3　伊都図書館内資料移転　（1F/BF→2F：全教図書）約80,000冊 ③9.1-7　中央館→伊都図書館：数理図書46,278冊 ④9.7-23　六本松→伊都図書館：書庫図書等約200,000冊 ⑤9.24-25　六本松→中央館：自然科学系図書22,500冊		約38万冊	業務委託
	2009.8.17-9.2	入庫	自動書庫入庫作業 （数理雑誌）	伊都	26,000冊	全館動員1*10名+伊都+派遣2名
	2009.9.2	データ移行・整備	NC所蔵一括削除 （中図-数理）	箱崎	37,903件	NIIへ依頼
	2009.8.31-9.18/10.1-9	作業	六本松→中央館移転図書　ID表貼り	箱崎	22,500冊	分室要員+企画 中央館係割当
	2009.10.6	棚卸	棚卸し （伊都図書館数理図書）	伊都	41,900冊	業務委託
	2009.10.13-11.13	作業	理学部書庫地階の図書　ID表貼り＆混配	箱崎	19,600冊	中央館係割当
	2009.10.初め-11.2	データ移行・整備	NC所蔵アップロード （数理図書　理図-@への登録）	箱崎	29,986件	図書目録係
	2009.10.中-11.中	データ移行・整備	NC所蔵アップロード （六本松4門　中図-理への登録）	箱崎	21,322件	図書目録係
	2009.11.16-3.30	作業	伊都図書館図書　ID表貼り （六本松書庫図書）	伊都	約15万冊	派遣2名
その他	2009.9.20-23		六本松→伊都図書館什器移転	六本松→伊都		業務委託
	2009.10.2-20		六本松不用品処分	六本松		業務委託